進路決定率　第１弾【全体／男女別／学部系統別】

「27 年進路決定率」大幅に上昇！

25 年から連続で上昇、特に文系が顕著

旺文社　教育情報センター　27 年 12 月

旺文社刊行の『大学の真の実力　情報公開 BOOK』（毎年 9 月末発行）は、大学の「入口」と「出口」についてまとめたデータブックだ。学部別の入学者データと卒業者データを２本柱とし、各大学にご回答いただいたアンケートを元に、さまざまなデータを掲載している。

今回はその卒業者データから算出できる「進路決定率」について、25 年からの経年で、全体、男女別、学部系統別という観点から見られる特徴をまとめた。

●「進路決定率」とは

進路決定率とは、大学の卒業者における就職者と大学院進学者の割合だ。就職と進学を卒業後の進路の 2 大要素として定義し、そのどちらであったにしても、どれくらいの学生が進路をしっかり確保したうえで卒業したのかを見ることができる。

志望校選定の際、多くの受験生、保護者が注目する指標に「就職率」がある。大学を見るときに参考にするこの数値は、便利ではあるが、実は以下の問題点を抱えている。

【就職率の困難さ（実際の大学の例）】

学部	卒業者	就職希望者	就職者	進学者
A学部	434	343	312	30

(1)分母＝卒業者全体の場合…大学院進学者が反映されず、就職率が低く出てしまう。
(2)分母＝就職希望者の場合…就職率は高く出るが、「就職希望者」の定義があいまい。

文科省が定義する就職率は(2)だ。しかしこの大学では「就職希望者＋進学者」が 373 名にしかならず、卒業者との 61 名もの差は果たして何なのか、という疑問が生じる。この 1 学部で数十名にもなる差は、有名大や難関大を含めてもはや一般的となっている。

そこで新たな指標として見るべきなのが、「進路決定率」だ。

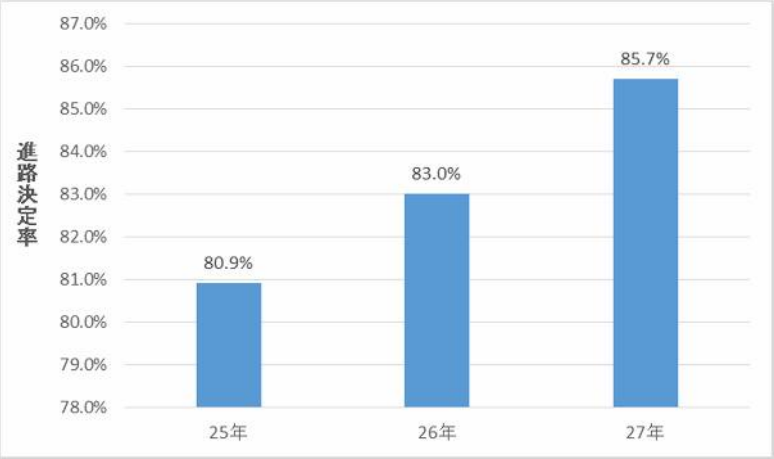
進路決定率＝（就職者（※１）＋大学院進学者）÷卒業者総数×100［%］

※１　正規雇用者及び雇用契約が 1 年以上、フルタイムの非正規雇用者。学校基本調査の基準に準ずる。また、医学科、歯学科の卒後臨床研修医は就職者に含む。

進路決定率を見れば、これまで就職率では比較できなかった、大学院進学者の多い学問分野も同一条件で比較することが可能となる。これからは就職率だけでなく、進路決定率にも注目しながら、進むべき道を見定めていってほしい。

©2015 旺文社 教育情報センター

●27 年の進路決定率は 85.7%



＊25 年進路決定率は同年 3 月までの卒業者（24 年度卒業生）のデータを元に算出。他の年も同様。

【有効回答数】

25 年：699 大学 2196 学部

26 年：710 大学 2256 学部

27 年：712 大学 2258 学部

【進学＝ややダウン、就職＝大幅アップで、進路決定率＝大幅アップ】

上のグラフを見てわかるように、進路決定率は 25 年から 2 年連続で上がり、25 年と 27 年を比べると 4.8 ポイント上昇している。

上昇の主な要因は、就職状況の改善だ。卒業者総数に占める進学者の割合は、25 年→26 年→27 年で 11.6%→11.3%→11.1%と年々少しずつ下がっているが、一方で就職者の割合は、67.7%→70.2%→73.0%と年々上がっている。

【文系＝83.3%、理系＝90.4%で、特に文系がアップ】

さらに同じく 3 年間の進路決定率を文系・理系の学部系統別に見ていくと（※２）、特に文系の進路決定率が上がっていることがわかる。

・文系…77.6%→83.3%（5.7 ポイント上昇）

・理系…86.9%→90.4%（3.4 ポイント上昇）

この要因は、卒業者総数に占める就職者の割合が、文系で 6.2 ポイント、理系で 4.3 ポイントと大幅に上昇していることにある。

理系は文系よりも毎年進路決定率が高いが、その差は 25 年→26 年→27 年で 9.3 ポイント→8.3 ポイント→7.1 ポイントとなっており、これまで卒業者総数に占める就職者の割合が低調であった文系がその割合を大幅に上げたことで、文理差が縮まり、さらに全体の進路決定率を引き上げている。

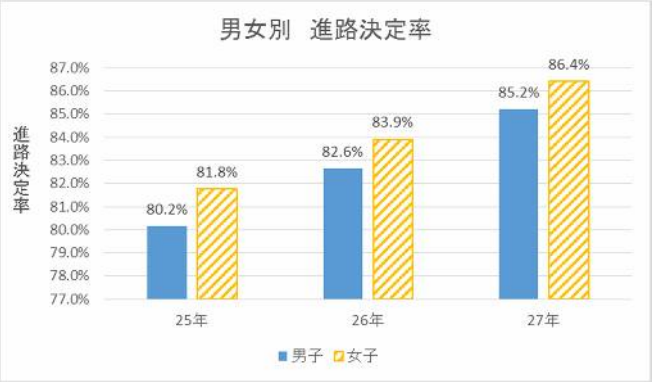
※２

文系＝文学部、外国語学部、人文・教養・人間科学部、教育・教員養成系学部、法学部、経済・経営・商学部、社会・社会福祉学部、国際関係学部系統

理系＝理学部、工学部、農・獣医畜産・水産学部、医学部、歯学部、薬学部、看護・医療・栄養学部系統

©2015 旺文社 教育情報センター

●進路決定率は例年、男子よりも女子のほうが高い



＊25 年は医学部医学科・歯学部歯学科を除く。

【有効回答数】

25 年：644 大学 2012 学部

26 年：675 大学 2196 学部

27 年：680 大学 2187 学部

【進学＝「男＞女」、就職＝「男＜女」で、進路決定率＝「男＜女」】

次に、男女別に見てみよう。男女ともに、進路決定率は 2 年連続で上がっている。卒業者総数に占める進学者の割合は下がり、一方で、就職者の割合は上がっている。

また、進路決定率は男子よりも女子の方が高いというのが特徴だ。どの年も、卒業者総数に占める進学者の割合で男子の方が約 9 ポイント上回っているが、就職者の割合では女子の方が約 11 ポイント高い。

ちなみに、就職者全体に占める非正規雇用者（雇用契約が 1 年以上、フルタイムの非正規雇用者）の割合は、男子 3.9%に対し、女子が 6.5%である（数値は 27 年度学校基本調査速報＜文部科学省＞による）。

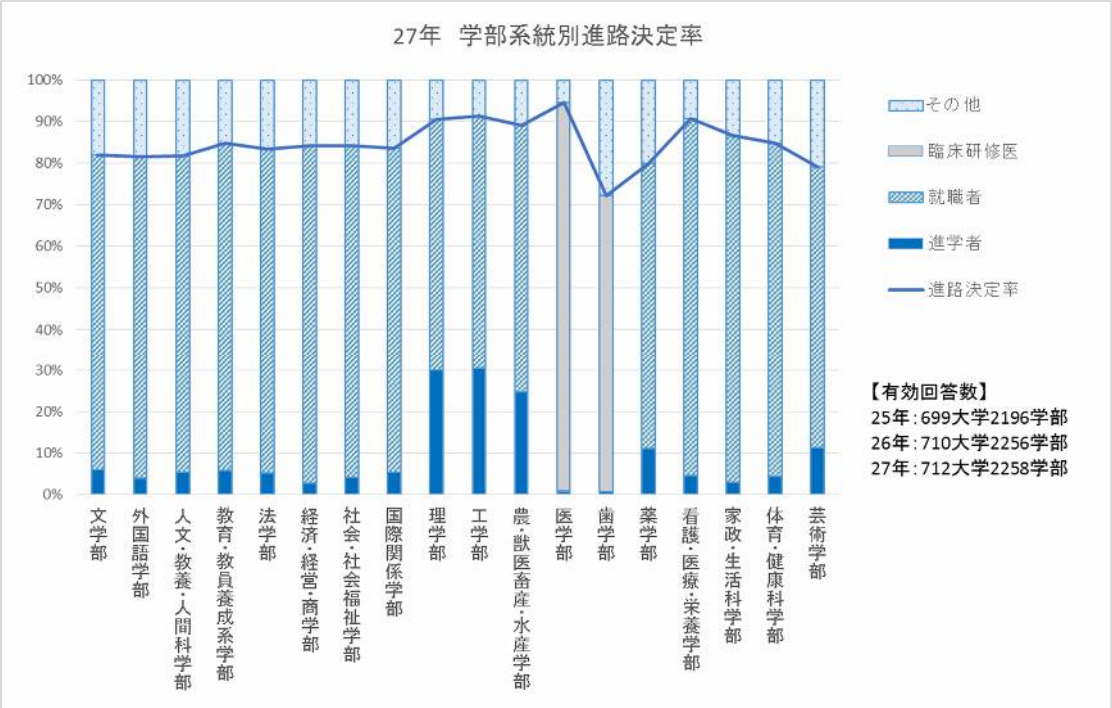
●進路決定率は理系学部系統が引き上げている

27 年　学部系統別進路決定率

順位	学部系統	進路決定率	順位	学部系統	進路決定率
1	医学部	94.7%	10	経済・経営・商学部	84.2%
2	工学部	91.3%	11	国際関係学部	83.5%
3	看護・医療・栄養学部	90.8%	12	法学部	83.4%
4	理学部	90.5%	13	文学部	82.0%
5	農・獣医畜産・水産学部	89.0%	14	人文・教養・人間科学部	81.8%
6	家政・生活科学部	86.6%	15	外国語学部	81.5%
7	教育・教員養成系学部	84.8%	16	薬学部	80.0%
8	体育・健康科学部	84.8%	17	芸術学部	79.1%
9	社会・社会福祉学部	84.2%	18	歯学部	72.1%

上の表は、27 年の学部系統別の進路決定率、そして次ページのグラフは、卒業者総数に占める進学者・就職者・臨床研修医・その他の割合を表したものだ。これを見ると、歯学部・薬学部を除く理系の学部系統で、進路決定率が高いことがわかる。なぜこうした学部において、割合が高くなっているのだろうか。

©2015 旺文社 教育情報センター



まずは、25 年から 27 年までのどの年においても進路決定率の高い医学部、および看護・医療・栄養学部系統は、資格取得率（国家試験合格率）が高いために進路決定率が高くなっている。また、理学部、工学部、農・獣医畜産・水産学部で進路決定率が高いのは、卒業者総数に占める就職者の割合は 60%だが、進学者の割合が 30%前後と高いためだ。この傾向は、25～27 年のどの年においても同様だ。

大きな変動があったのは薬学部だ。薬学部は 25 年の段階では、医学部に続いて高い割合だった。しかし 26 年、27 年と進路決定率が下がり、27 年には文系を含むすべての学部系統と比較しても低い割合になっている。これには、薬剤師国家試験合格率が 25 年度 79.1%に対し、26 年度 60.8%、27 年度 63.2%と大幅にダウンしたことが影響している。

次に文系の学部系統を見てみよう。進路決定率においては、いわゆる実学系の社会科学系と人文科学系の学部系統間に大きな差はない。しかし、進学と就職に分けて見てみると、両者はやや異なる。例えば、経済・経営・商学部系統と文学部系統の 27 年を比較した場合、進路決定率は 2.1 ポイント差で僅差だが、卒業者総数に占める就職者の割合では経済・経営・商学部系統の方が 5.3 ポイント高く、進学者の割合は文学部系統の方が 3.2 ポイント高い。

なお、経済・経営・商学部系統の進路決定率は、非常に低い大学もあり、大学別に見ると分布が幅広いことも付け加えておく。

◆　　◆　　◆

今回は全体、男女別、学部系統別にそれぞれ進路決定率を見てきた。次回は国公私立大別に割合を見ていこう。次回掲載は 28 年 1 月中旬を予定、ぜひご覧いただきたい。

©2015 旺文社 教育情報センター